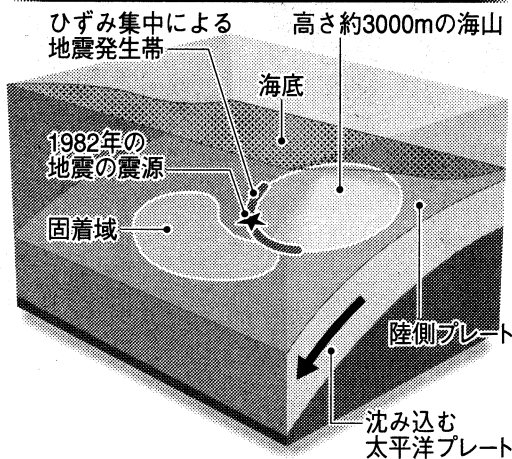


富士山級海山沈み込み

茨城県沖約百キロの海底
の下でプレート(岩板) マグニチュード(M)7
の上にある高さ三千メートル級の地震が起きる原因に
いう富士山級の海山が沈み込んでいるとの研究結果

東大助教ら米科学誌に発表

茨城県沖の地震の仕組み



を、東京大地震研究所の望月公廣助教らが二十九日付の米科学誌サイエンスに発表した。

望月さんによると、この海山は、陸側のプレートの下に沈み込む太平洋プレート上にあり、既に全体が陸側プレートの下に潜り込んだ状態。約七十年前から動き始め、現在も山状のまま沈み込み続けており、ふもと部分が陸側プレートに引っ掛かっている。

望月さんは「海山前面のプレート同士が強固く固くくっつく固着域として働き、ある時急激にずれて地震を起こしているのではないか」と話している。

望月さんらは、この海

茨城沖 岩板上 20年ごとM7地震

域の地殻構造を調査、分析。海面から約十キロの深さの場所で海山が沈み込んでいると突き止めた。

一九八二年に起きたM7.0の地震では、地震は海山のふもとで最初に発生し、前面の破壊へと進んでいた。

従来は、海山の頂上部が陸側プレートに引っ掛かって固着域になると考えられてきたが、この海域の過去の地震は、海山のふもとに集中。震源域も、この海山から離れており、海山自体が固着域ではないと分かった。

海山が沈み込んだ跡には固まりにくい堆積(たいせき)物が入り、地震を起こさなくなっているという。